

日本の主な火山活動

平成 18 年（2006 年）1 月の主な火山活動は次のとおりである。

【噴火した火山】

桜 島 [比較的静穏な噴火活動（レベル 2）]

26 日に爆発的噴火が 1 回観測された。

諏訪之瀬島 [活発な状況（レベル 3）]

噴火が観測された日が 14 日間あり、爆発的噴火が 14 回観測された。

【活動が活発もしくはやや活発な状態にあった火山】

十勝岳 [やや活発な状況]

62 - 2 火口は噴煙活動が活発で、高温状態が続いていると推定される。

樽前山 [やや活発な状況]

A 火口及び B 噴気孔群は高温状態が続いていると推定される。

浅間山 [やや活発な状況（レベル 2）]

下旬に火山性地震が多い状態となり、微弱な火映も観測された。火山ガスの放出量もやや多い状態であった

三宅島 [やや活発な状況]

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、1 日あたり 2 千～5 千トン程度で、依然として多い状態が続いている。

福徳岡ノ場 [やや活発な状況]

2 日及び 13 日に変色水が確認された。

阿蘇山 [やや活発な状況（レベル 2） 静穏な状況（レベル 1）]

火山活動は静穏な状態になったと判断し、20 日にレベルを 2 から 1 に引き下げた。

霧島山（御鉢） [やや活発な状況（レベル 2）]

御鉢火口の噴気活動は依然としてやや活発な状態が続いている。

薩摩硫黄島 [やや活発な状況（レベル 2）]

噴煙活動のやや活発な状態が続いている。

口永良部島 [やや活発な状況（レベル 2）]

火山性地震のやや多い状態が続いている。

【静穏な状況であったが、観測データに変化がみられた火山】

伊豆東部火山群 [静穏な状況]

25～27 日に地震が一時的にやや増加した。

伊豆大島 [静穏な状況（レベル 1）]

5～9 日に地震が一時的にやや増加した。

霧島山（新燃岳） [静穏な状況（レベル 1）]

18 日頃から火山性地震が増加し 28 日頃までやや多い状態が続いた。

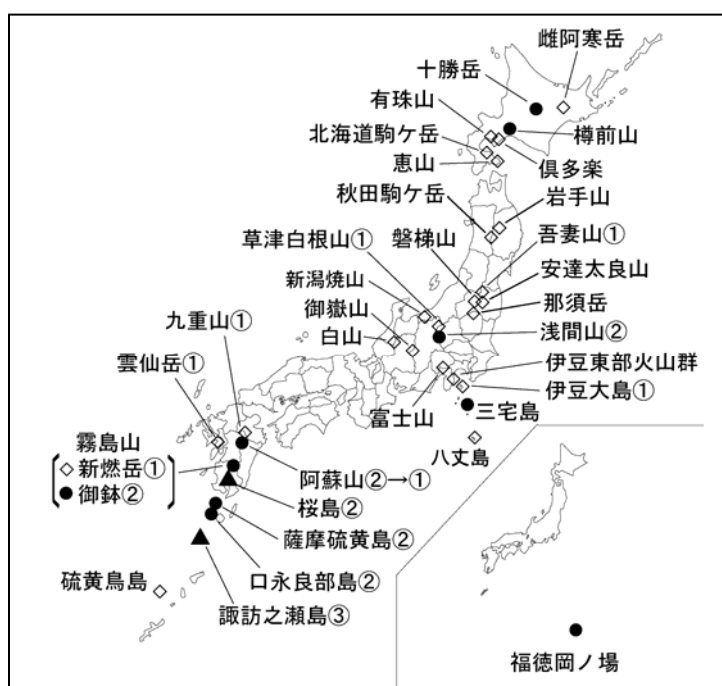


図 1 今回記事を掲載した火山

末尾の資料

- 期間中に発表した火山情報の一覧表
- 過去 1 年間の火山活動の状況

注 1 本資料において、レベルは火山活動度レベルを示す。

注 2 記号の意味

- ：噴火した火山
- ：活動が活発もしくはやや活発な状態にあった火山
- ：その他記事を掲載した火山等の丸付き数字：火山活動度レベル

各火山の活動解説

雌阿寒岳 【比較的静穏な状況】

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、火山活動は比較的静穏に経過した。

十勝岳 【やや活発な状況】

62-2 火口の噴煙活動は活発な状態が続いており、噴煙の高さは火口縁上概ね 200m で経過した。前期間と比べ噴煙活動に特に変化はみられていないことから、同火口の熱活動にも大きな変化はなく、高温の状態が続いていると推定される。

火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は観測されなかった。地殻変動観測では火山活動に起因するとみられる変化はなかった。

樽前山 【やや活発な状況】

A 火口及び B 噴気孔群の噴煙の状況に特段の変化がみられていないことから、これらの火口の熱活動にも大きな変化はなく、高温状態が続いていると推定される。

火山性地震の発生状況には特段の変化はなく、火山性微動は観測されなかった。また、地殻変動観測では火山活動に起因するとみられる変化はなかった。

倶多楽 【静穏な状況】

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

有珠山 【静穏な状況】

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。24 日に海上保安庁の協力により行った上空からの観測でも、山頂火口原及び金比羅山火口群の状況に特段の変化はなかった。

北海道駒ヶ岳 【静穏な状況】

GPS による地殻変動観測ではわずかな山体膨張が引き続き観測されているが、地震活動、噴気活動等の観測データには特段の変化はなく、火山

活動は静穏に経過した。

恵山 【静穏な状況】

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

岩手山 【静穏な状況】

地震活動、噴気活動等の観測データに特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

秋田駒ヶ岳 【静穏な状況】

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

吾妻山 【静穏な状況（レベル 1）】

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

安達太良山 【静穏な状況】

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

磐梯山 【静穏な状況】

地震活動、噴気活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

那須岳 【静穏な状況】

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

草津白根山 【静穏な状況（レベル 1）】

地震活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、また噴煙は観測されず、火山活動は静穏に経過した。

浅間山 【やや活発な状況（レベル 2）】

火山性地震が中旬から増加傾向となり 30 日以降多い状態となった。噴煙活動は依然としてやや活発で、30 日以降は微弱な火映も観測され、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量もやや多い状態であった。

山頂火口からの噴煙活動は引き続きやや活発

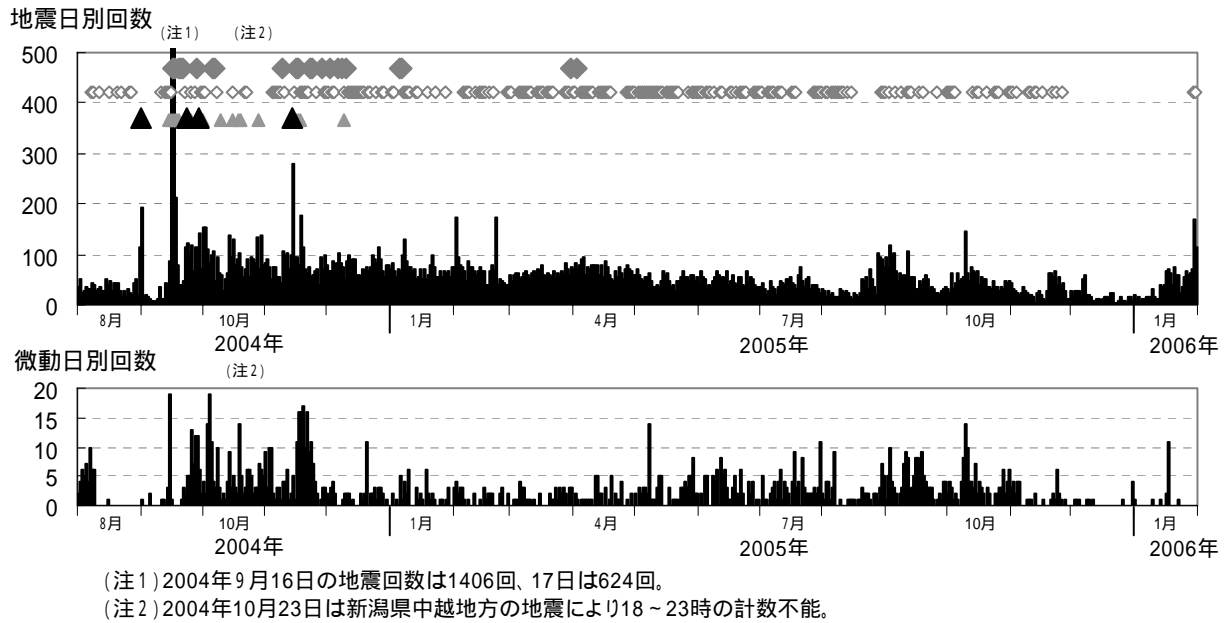


図2 浅間山 2004年8月～2006年1月の噴火、火映、火山性地震及び微動の日別発生状況
 : 中爆発、 : 小噴火以下、 : 火映（肉眼）、 : 火映（高感度カメラ）

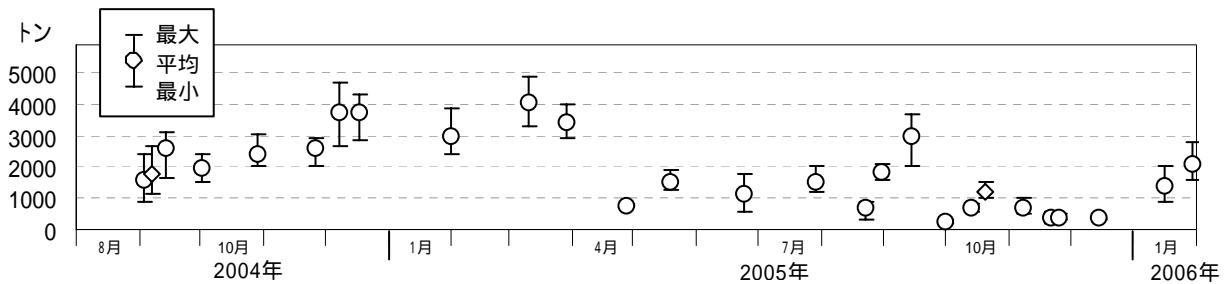


図3 浅間山 二酸化硫黄の1日あたりの放出量（2004年8月～2006年1月）
 : 車載トバース、 : ヘリ搭載トバース

で、白色噴煙が連続的に噴出しており、噴煙高度は概ね火口縁上 200m で推移した（最高は 17～19 日の火口縁上 300m）、30 日及び 31 日の夜間に山麓の高感度カメラ¹⁾で微弱な火映が観測されており、火口内は高温状態にあると推定される（微弱な火映が観測されたのは 2005 年 11 月 26 日以来）（図 2）。

12 日に群馬県の協力により行った上空からの観測では、濃い噴煙のため火口内の状況は不明であったが、火口周辺に新たな噴出物は認められなかった。

16 日及び 30 日に行った火山ガス観測では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 900～2,000 トン（16 日）、1,600～2,800 トンと前回（2005 年 12 月 15 日 300～400 トン）と比べやや多い状態となっている。（図 3）。

火山性地震は、上旬はやや少ない状態で推移していたが、中旬に入ってから回数数が 50 回を超えるなどやや多くなり、30 日以降はさらに増加して 30 日 168 回、31 日 115 回と多い状態となった。震源はほとんどが山頂火口直下の浅い所と推定される。これらの地震増加に際して、傾斜計や GPS による地殻変動観測では特段の変化はみられなかった。火山性微動は時折発生し、17 日に 11 回と一時的にやや多く発生したが、いずれも振幅の小さなものであった（図 2）。

GPS 連続観測では、一部の基線で見られていた山体の膨張を示すゆっくりとした水平距離の伸び（浅間山深部へのマグマの注入、蓄積を示すと考えられる）は、2005 年 6 月頃からは停滞した状態となっている。また、傾斜計による観測及び気象研究所と共同で行っている光波測距観測で

は、火山活動の高まりを示すような変化はなかった。

- 1) 気象庁及び国土交通省関東地方整備局利根川水系砂防事務所が設置。

新潟焼山 【静穏な状況】

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

御嶽山 【静穏な状況】

地震活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、また噴煙は観測されず、火山活動は静穏に経過した。

白山 【静穏な状況】

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

富士山 【静穏な状況】

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

伊豆東部火山群 【静穏な状況】

25～27日に地震が一時的にやや増加したが（後述）、噴煙、火山性微動等は観測されず、火山活動は特段の変化なく静穏に経過した。

25日20時頃から27日未明にかけて、伊豆半島東方沖の川奈崎付近、深さ約10kmを震源とする微小な地震がやや増加した。最大地震は26日12時46分に発生したM（マグニチュード）1.1で、この地震を含め震度1以上を観測した地震は

なかった。低周波地震は観測されなかった。

地震の増加に前後して、東伊豆町に設置している体積歪計^{ひずみ}にわずかな縮みの変化がみられ、伊東市に設置されている防災科学技術研究所の傾斜計にも変化がみられた。GPSによる地殻変動観測では特段の変化はみられなかった。

この付近では過去にもしばしば地震活動が活発化しており、今回の活動は規模の小さなものであった。

伊豆大島 【静穏な状況（レベル1）】

地殻変動観測では長期的な山体の膨張傾向が継続しており、5～9日に地震が一時的にやや増加したが（後述）、噴煙、火山性微動等は観測されず、火山活動に特段の変化なく静穏に経過した。

5～9日に島の西方海域の深さ約4～6kmを震源とする地震がややまとまって発生した。最大地震は8日17時19分に発生したM1.8で、この地震も含め震度1以上を観測した地震はなかった。その後、地震活動は落ち着いた状態に戻っている。この周辺では、これまでにもしばしば地震の一時的な多発がみられており、最近では2005年12月29～30日にも発生している。

三宅島 【やや活発な状況】

多量の火山ガス（二酸化硫黄）の放出が続いている。

噴煙活動は引き続き活発で、白色噴煙が山頂火口から連続的に噴出しており、噴煙高度は概ね200～300mで推移した（最高は29日の火口縁上800m）。

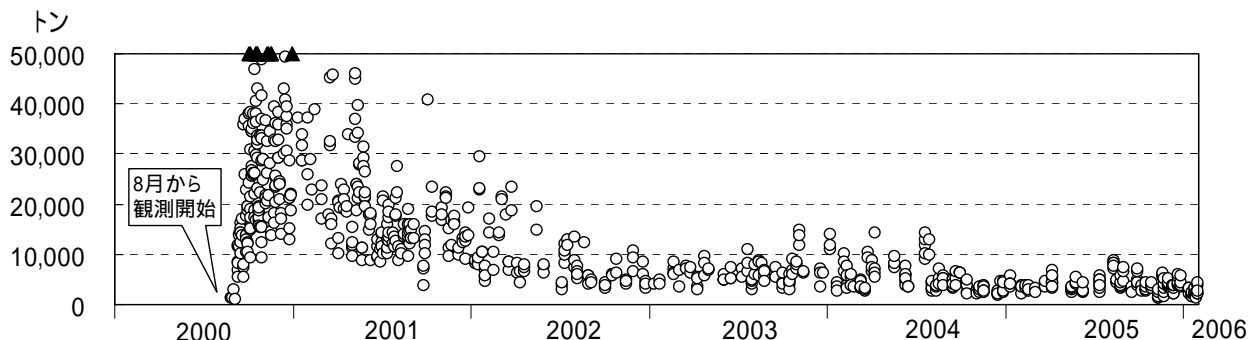


図4 三宅島 二酸化硫黄の1日あたりの放出量（2000年8月～2006年1月）
2004年秋以降は1日あたり2千～5千トン程度で、依然として多い状態が続いている。

（注） は50,000トン/日以上を表す。

この図は、陸上、海上及び航空自衛隊、海上保安庁、東京消防庁、警視庁の協力により作成。

火山ガス観測²⁾では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 1,300～4,300 トンと依然として多い状態であった（図 4）。三宅村の火山ガス濃度観測でも、山麓でたびたび高濃度の二酸化硫黄が観測されている。

18 日及び 20 日に東京消防庁の協力により上空から行った観測では、火口内温度の最高は約 130 で（20 日、赤外熱映像装置³⁾による）依然として高温状態が続いている。火口内の地形等に特段の変化はなかった。地磁気全磁力連続観測では特段の変化はみられていないことから、地下の熱的な状態に大きな変化はないものと考えられる。

3 日 02 時から 08 時にかけて火口直下を震源とする地震が一時的に増加し、02 時 51 分、07 時 17 分及び 08 時 26 分に空振を伴う低周波地震が発生した。02 時 51 分及び 07 時 17 分の地震では三宅島神着で震度 1 を観測した。この地震増加や低周波地震の発生に際して噴煙の状況に変化はなく、その他の観測データにも特段の変化はなかった⁴⁾。その他の日は少ない状態で経過した。地震の震源はほとんどが山頂火口直下に分布し、前期間までと比べて特段の変化はなかった。火山性微動は観測されなかった。

GPS による地殻変動観測では、山体浅部の収縮を示す地殻変動は徐々に小さくなりながら、現在も継続している。

- 2) 4 日、11 日、17 日、24 日、27 日及び 30 日に実施。
 3) 赤外放射温度計及び赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度もしくは温度分布を測定する測器であり、熱源から離れた場所から測定することができる利点があるが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合がある。
 4) 三宅島では、空振を伴う低周波地震が発生した際に山頂火口から火山灰噴出を伴うことがある。

八丈島 【静穏な状況】

地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

福徳岡ノ場 【やや活発な状況】

2 日に海上保安庁、13 日に海上自衛隊が行っ

た上空からの観測によると、福徳岡ノ場付近に火山活動によると考えられる変色水が確認された。

2 日の変色水は福徳岡ノ場付近から東へ伸びる長さ約 1,000m、幅約 50m の薄い緑色のもので、13 日は福徳岡ノ場付近から南西へ伸びる長さ約 3,000m、幅約 400m の緑色のものであった。いずれの日も、同海域周辺で噴煙や浮遊物は確認されなかった。

福徳岡ノ場では以前から変色水が度々確認されており、2005 年 7 月 2～3 日には小規模な海底噴火が発生し、その後もしばしば変色水が確認されている。

九重山 【静穏な状況（レベル 1）】

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

阿蘇山 【やや活発な状況（レベル 2） 静穏な状況（レベル 1）】

中岳第一火口の熱活動は低調な状態が続き、火山性連続微動の振幅も小さい状態が続いている。火山活動は静穏な状況になったと判断し、20 日にレベルを 2（やや活発な火山活動）から 1（静穏な火山活動）に引き下げた。

中岳第一火口の熱活動は低調な状態が続いており、5 日、11 日及び 17 日に行った現地観測では、火口内の湯だまり⁵⁾は、量が約 8 割で変化なく、色は 17 日に乳緑色から緑色に変わり、表面温度は 52～62（赤外放射温度計³⁾による）と引き続きやや低い値であった（2005 年 11 月 8 日以降、表面温度は 60 前後とやや低い値が続いている）。湯だまり内では土砂噴出は観測されなかった。

火山性連続微動の振幅は期間を通して小さい状態で経過した。

孤立型微動及び火山性地震の発生状況、噴煙の状況には特段の変化はなく、GPS による地殻変動観測でも火山活動に起因するとみられる変化はなかった。気象庁地磁気観測所が行った地磁気全磁力連続観測では火山活動によるとみられる変化はなかった。

- 5) 湯だまり：活動静穏期中の中岳第一火口内には、地下水

などを起源とする約 50～60 の緑色のお湯がたまっており、これを湯だまりと呼んでいる。火山活動が活発化するにつれ、湯だまり温度が上昇・噴湯して湯量の減少がみられ、その過程で土砂を噴き上げる土砂噴出現象等が起り始めることが知られている。

雲仙岳 【静穏な状況（レベル 1）】

地震活動、噴煙活動、地殻変動等の観測データに特段の変化はなく、静穏に経過した。

霧島山（新燃岳）【静穏な状況（レベル 1）】

下旬に火山性地震がやや増加し、火山性微動も観測されたが規模の小さなもので、その他の観測データには特段の変化はなく、火山活動は静穏に経過した。

18 日から火山性地震が増加し 22 日（日回数 49 回）をピークに 28 日頃までやや多い状態が続いた。震源は新燃岳火口直下の浅い所と推定される。また、25 日に振幅の小さい火山性微動が観測された（1 回）。新燃岳で火山性微動が観測されたのは 2002 年 10 月以来である。

監視カメラ（火口の南約 7 km に設置）では火口縁を超える噴気は観測されなかった。26 日に行った調査観測では、火口内及び火口周辺の噴気の状態等に特段の変化はなかった。GPS 及び気象研究所の傾斜計による地殻変動観測でも火山活動に起因するとみられる変化はなかった。

霧島山（御鉢）【やや活発な状況（レベル 2）】

御鉢火口内の噴気活動は消長を繰り返しながらも依然としてやや活発で、火口縁を超える噴気が時々観測された。噴気の最高は 20 日に観測された火口縁上 400m であった。

火山性微動の月回数は 10 回とやや多かったが、いずれも振幅の小さなものであった。火山性地震は少ない状態が続いている。GPS 及び気象研究所の傾斜計による地殻変動観測では火山活動に起因するとみられる変化はなかった。

桜島 【比較的静穏な噴火活動（レベル 2）】

期間中観測された噴火は 26 日に観測された爆

発的噴火 1 回のみで、噴火活動は比較的静穏な状態が続いている。

26 日 06 時 51 分に爆発的噴火が発生し、灰白色の噴煙が火口縁上 400m まで上がった。鹿児島地方気象台（南岳の西南西約 11km）で降灰は観測されなかった。

火山性地震は、24 日から B 型地震⁶⁾が増加し、26～30 日には日回数が 100 回を超えたが（最多は 28 日の 132 回）、いずれも振幅の小さなものであった。火山性地震は長期的には少ない状態が続いている。火山性微動も少ない状態が続いている。

GPS による地殻変動観測では、長期的には始良カルデラの膨張によるとみられる東西方向のわずかな伸びの傾向が続いているが、2005 年 3 月以降は伸びの鈍化が見られている。

6) 火山性地震には、通常の構造性地震と同じような P 波、S 波が明瞭で高周波の波動からなる A 型地震と、位相が不明瞭な低周波の B 型地震がある。桜島の A 型地震はマグマ等の貫入に伴い地殻が破壊されるために発生していると考えられ、B 型地震はマグマ内の火山ガスの発泡等によって火道内で発生する地震とされている。

薩摩硫黄島 【やや活発な状況（レベル 2）】

噴火は観測されなかったが、噴煙活動は依然としてやや活発で、白色噴煙が硫黄岳火口から連続的に噴出しており、噴煙高度は火口縁上概ね 200 m で推移した。

火山性地震及び火山性微動の発生状況に特段の変化はなかった。

口永良部島 【やや活発な状況（レベル 2）】

火山性地震はやや多い状態が続いており、月回数は 176 回（前期間 169 回⁷⁾）であった（図 5）。震源は新岳火口付近のごく浅い所と推定される。火山性微動は少ない状態で経過した。

監視カメラ（新岳の北西約 4 km に設置）による観測では、噴気は観測されなかった。

7) 2005 年 12 月 15～28 日は京都大学のデータによる。

諏訪之瀬島 【活発な状況（レベル 3）】

噴火が観測された日が 14 日間あり、爆発的噴火が 14 回観測された。

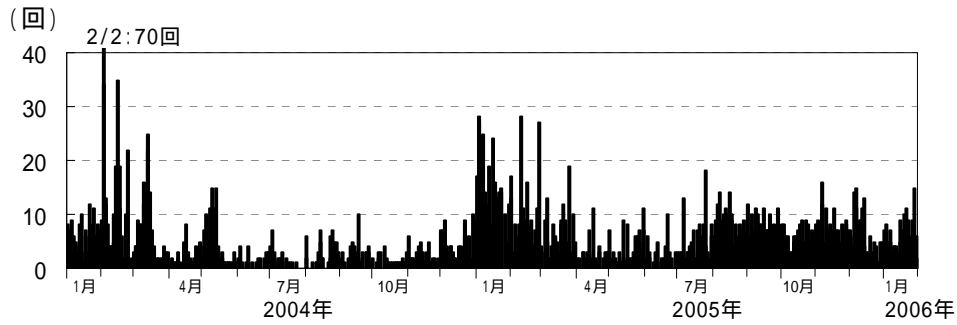


図5 口永良部島 火山性地震の日別発生回数（2004年1～2006年1月）
2005年12月15～28日は京都大学のデータによる。

1月1日、9～11日、17～19日及び25～31日に噴火が観測され、爆発的噴火が10日の6回を含め14回観測された（図6）。

十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、火山灰を含む噴煙が時々観測され、1月1日、10日、18日及び25日には集落（御岳の南南西約4km）で降灰があった。10日午後には集落で3回の爆発音が聞こえ、ガラスが揺れるほどの空振があった。監視カメラ（御岳の北北東約25kmの中之島に設置）による観測及び同出張所からの報告では、噴火による噴煙の最高は火口縁上1,000mであった。

火山性微動は、下旬に噴火の発生に伴い断続的に観測され、振幅のやや大きなものも観測された。

硫黄鳥島 【静穏な状況】

海上保安庁が19日に海上から、27日に上空から行った観測によると、噴気活動に特段の変化はなかった。気象研究所及び東京大学地震研究所が共同で行っている地震観測においても、期間中の地震活動に特段の変化はなく、火山活動は静穏な状態であった。

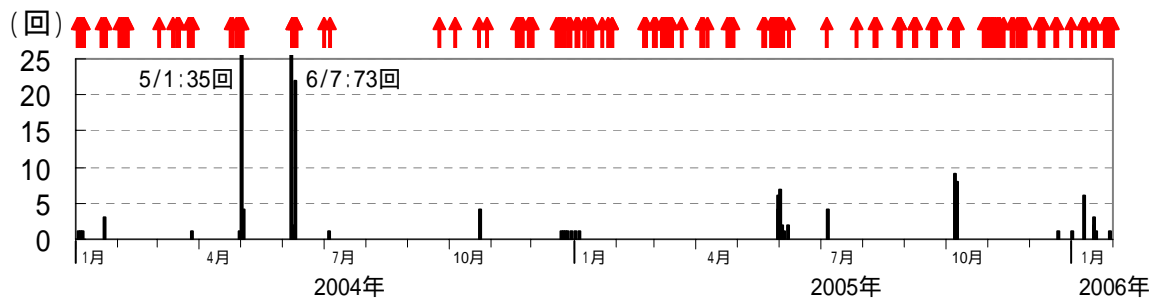


図6 諏訪之瀬島 爆発的噴火の日別発生回数及び噴火の発生状況
（2004年1月～2006年1月） は噴火発生日

資料 1 2006 年 1 月の火山情報発表状況

火山名	情報の種類及び号数	発表日時	概要
浅間山	火山観測情報第 1 号	6 日 16:00	12 月 28 日～1 月 6 日 15 時の活動状況。レベルは 2。
	火山観測情報第 2 号	13 日 16:00	1 月 6 日～1 月 13 日 15 時の活動状況。12 日の上空からの観測結果。レベルは 2。
	火山観測情報第 3 号	20 日 16:00	1 月 13 日～1 月 20 日 15 時の活動状況。16 日の火山ガス観測結果。レベルは 2。
	火山観測情報第 4 号	27 日 16:00	1 月 20 日～1 月 27 日 15 時の活動状況。レベルは 2。
三宅島	火山観測情報 第 1～31 号 (1 日 1 回発表)	1 日～31 日 16:30	前日 16 時～当日 16 時の活動状況及び上空の風の予想。
阿蘇山	火山観測情報第 1 号	6 日 11:00	やや活発な火山活動が継続（連続微動は振幅のやや大きくなる状態を繰り返している）。レベルは 2。
	火山観測情報第 2 号	13 日 11:00	
	火山観測情報第 3 号	20 日 11:00	火山活動は静穏な状態になった。レベルを 2 から 1 に引き下げた。

資料 2 過去 1 年間の火山活動の状況

火 山 名		平成17年 (2005年)											H18 1月
		2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
雌阿寒岳	活動												
十勝岳	活動												
樽前山	活動												
吾妻山	活動 レベル												
草津白根山	活動 レベル												
浅間山	活動 レベル												
伊豆大島	活動 レベル												
三宅島	活動												
福德岡ノ場	活動												
九重山	活動 レベル												
阿蘇山	活動 レベル												
雲仙岳	活動 レベル												
霧島山（新燃岳）	活動 レベル												
霧島山（御鉢）	活動 レベル												
桜島	活動 レベル												
薩摩硫黄島	活動 レベル												
口永良部島	活動 レベル												
諏訪之瀬島	活動 レベル												

活動状況（活動）

- ：噴火した火山
- ：活動が活発もしくはやや活発な状態であった火山

火山活動度レベル

- ：小規模な噴火が発生かその可能性
- ：やや活発な火山活動
（桜島については、「比較的静穏な噴火活動」）
- ：静穏な火山活動

世界の主な火山活動

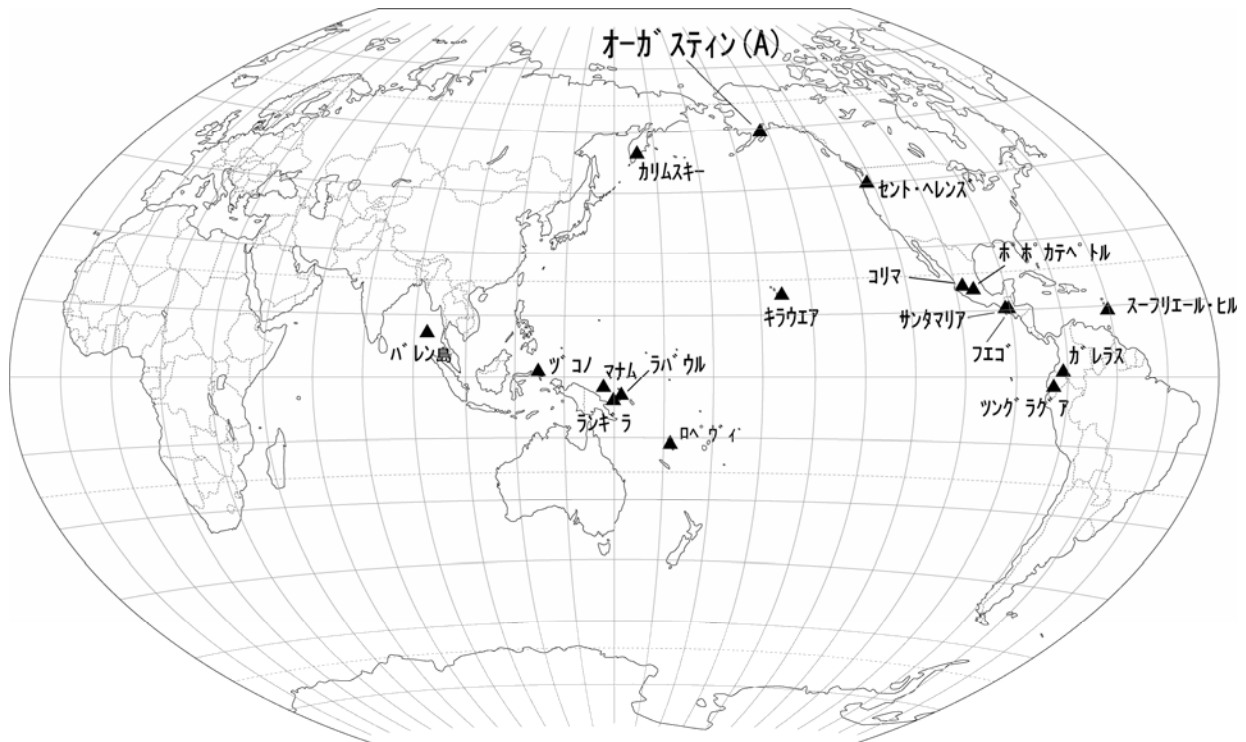
平成 18 年（2006 年）1 月に噴火の報告された主な火山（日本を除く）は下図のとおりである。
このうち、活動が活発であった主な火山は以下のとおりである。

オーガスティン火山（アラスカ）(図中 A)

11 日に爆発的噴火が発生し、噴煙が海拔約 9km まで上がった。山腹を火山泥流が流下したのが確認された。オーガスティン火山で噴火が観測されたのは 1986 年以来である。13 日から 14 日未明にかけて噴火活動が活発になり、爆発的噴火が繰り返し発生した。噴煙の高さは海拔約 10km まで達し、東南東に流れて、100km 以上離れたケナイ半島（オーガスティン火山は火山島）で少量の降灰があった。噴火のたびに山腹を小規模な火砕流や泥流が流下した。

27 日に噴火活動が再開し、噴煙の高さは海拔約 12km に達した。28 日午後から 31 日にかけて噴火は連続的になり、火山灰を連続的に噴出、小規模な火砕流が頻発した。北北東に流れた火砕流のいくつかは海に達した。噴火活動は航空機関に影響を与え、アンカレッジ空港を利用する航空機では欠航や飛行ルートの変更が行われたケースもあった。

(以上、米国スミソニアン自然史博物館の G V P (Global Volcanism Program) による。日付は全て現地時間。火山名の読み方は、原則として気象庁：「火山観測指針 (参考編)」による。)



平成 18 年 1 月に噴火の報告された主な火山（日本を除く）